

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2008年12月1日

63号



Together!!

国連経済社会理事会NGO Sectionが貧困撲滅のフォーラムを11月25日、ニューヨーク国連会議室4にて午後3時から6時まで行われ、今までの南北米の活動が評価され、パネラーとして現地、南北米福地財団佐野副会長が『共栄する社会を目指して』と発表することになりました。

杉山もと子フォーラム担当
共同責任者からの招待状

『レダの取り組みは国連が取り組んでいる膨大な諸分野の幾つかと重なる分野があると思います。例をあげれば、既にご存知かと思いますが先ず、発展途上国における持続可能な開発、地球温暖化に向けての環境問題への取り組み（植林、新バイオエナジーの可能性）ミラニアム開発目標にある貧困撲滅と普遍的初等教育の達成（Youth volunteer等による学校建設）等』

スピーチとしての流れは、まず、我々のいるパンタナールの紹介、そして我々団体がこの地に持つている現在のインフラ、我々の団体の目的（パンタナールの自然保護、世界への紹介・エコツアー・プロジェクト、近隣の村への経済教育援助、そして、この地で育つ作物の研究）、そしてその目的の一つ一つについて、今までなしてきたことを紹介、そして最後に農業プロジェクトを通じてこの地に生でできる物を研究しこの地の経済振興に寄与する可能性を探ると言つ内容で行つ。



佐野氏
一九九九年より、日本でパンタナールを愛する会として設立、パラグアイのパンタナールに土地を購入し、以来、現地法人を立ち上げ、エコツアーの拠点としてインフラを確立、現住民を援助すると共に、その地域の経済的自立の方向を模索しています。その現地法人の副会長として初期から活動している。



国連にて佐野氏が報告するパワーポイントの内容の一部

チャコ地方エコツーリズムの開発 (自然、文化保護と村の経済自立)



現地の教育水準の向上と先進国の中青年達のボランティア精神の向上



現地の土地と気候にあった農業開発と厳しい粘土層への植林活動



食糧問題のため稲の耕作

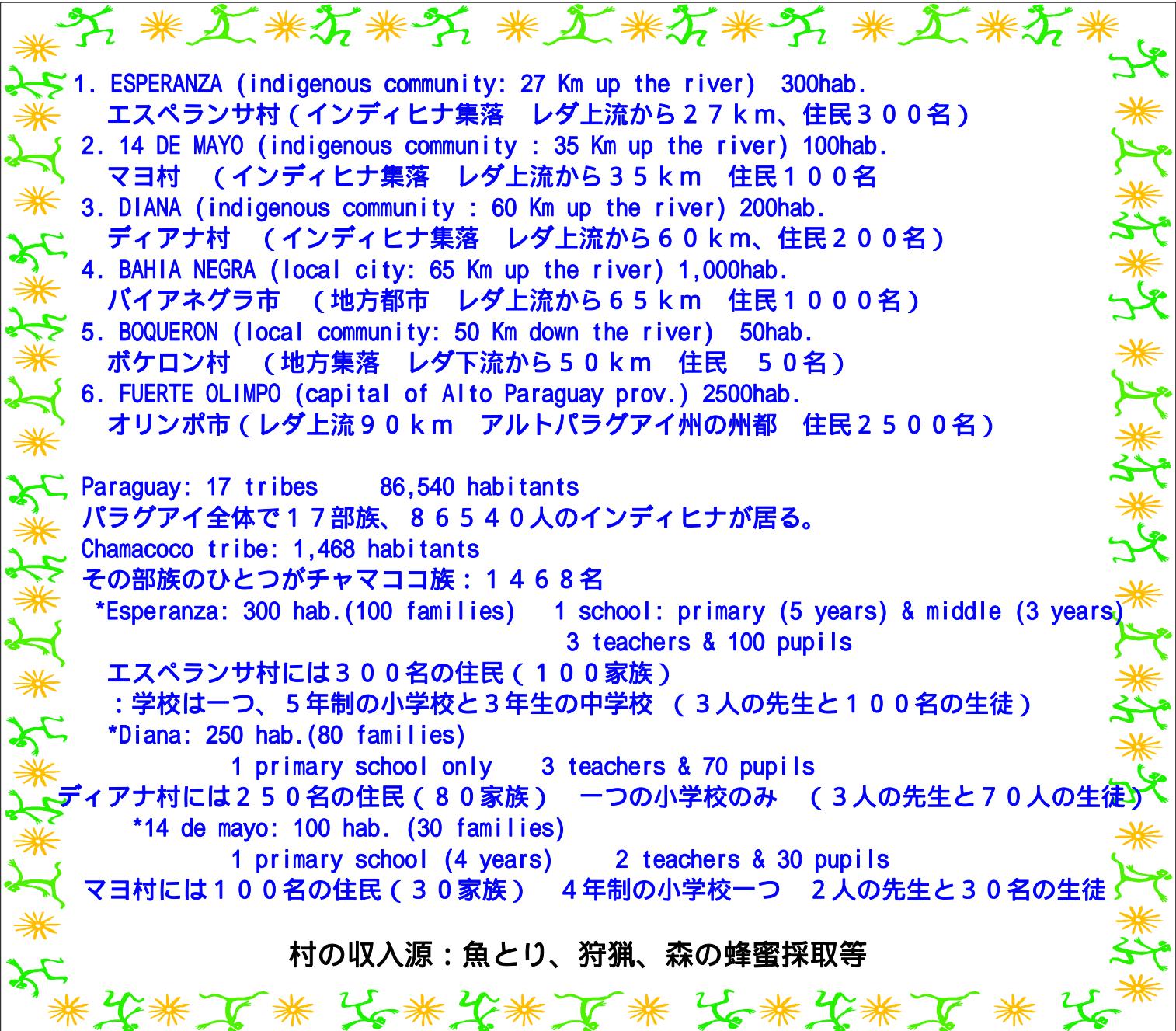
バイオ燃料のためのジャトロファ

温暖化対策のためのニームの植林

現地の雇用と労働者への技術教育



レダ近郊のインディヒナの村の現況

- 
1. ESPERANZA (indigenous community: 27 Km up the river) 300hab.
エスペランサ村 (インディヒナ集落 レダ上流から 27 km、住民 300 名)
 2. 14 DE MAYO (indigenous community : 35 Km up the river) 100hab.
マヨ村 (インディヒナ集落 レダ上流から 35 km 住民 100 名)
 3. DIANA (indigenous community : 60 Km up the river) 200hab.
ディアナ村 (インディヒナ集落 レダ上流から 60 km、住民 200 名)
 4. BAHIA NEGRA (local city: 65 Km up the river) 1,000hab.
バイアネグラ市 (地方都市 レダ上流から 65 km 住民 1000 名)
 5. BOQUERON (local community: 50 Km down the river) 50hab.
ボケロン村 (地方集落 レダ下流から 50 km 住民 50 名)
 6. FUERTE OLIMPO (capital of Alto Paraguay prov.) 2500hab.
オリンポ市 (レダ上流 90 km アルトパラグアイ州の州都 住民 2500 名)
- Paraguay: 17 tribes 86,540 habitants
パラグアイ全体で 17 部族、86,540 人のインディヒナが居る。
- Chamacoco tribe: 1,468 habitants
その部族のひとつがチャマココ族: 1,468 名
- *Esperanza: 300 hab. (100 families) 1 school: primary (5 years) & middle (3 years)
3 teachers & 100 pupils
エスペランサ村には 300 名の住民 (100 家族)
: 学校は一つ、5 年制の小学校と 3 年生の中学校 (3 人の先生と 100 名の生徒)
- *Diana: 250 hab. (80 families)
1 primary school only 3 teachers & 70 pupils
ディアナ村には 250 名の住民 (80 家族) 一つの小学校のみ (3 人の先生と 70 名の生徒)
- *14 de mayo: 100 hab. (30 families)
1 primary school (4 years) 2 teachers & 30 pupils
マヨ村には 100 名の住民 (30 家族) 4 年制の小学校一つ 2 人の先生と 30 名の生徒
- 村の収入源: 魚とり、狩猟、森の蜂蜜採取等

第 8 回国際協力青年奉仕隊隊長、三石氏からの近況報告

私は昨日、久しぶりにエスペランサに行ってまいりました。カトルセ デ マージョから働きに来ている労働者の 2 歳半の娘が、急病で重態に陥っていると言う知らせがあり、急遽その労働者をボートに乗せて村に連れ帰ることになりました。

それで突然でしたが私が同行することになり、エスペランサにはその帰りに立ち寄った次第です。カトルセ デ マージョ村も何年か前の学生奉仕隊の活動の時以来で久しぶりでした。相変わらずの貧しさがいつもの最初の印象として心を痛めます。労働者の娘は思ったほどの重態には見えませんでしたが、一週間前には、やはりレダにきていた他の労働者の 3 歳の男の子が急に死んでしまっています。このところ暑さが続いていたし、子供達の体力も落ちていたのでしょう。感染性の腸チフスだった可能性もあります。医者もいないし、薬もなく、こういう場合親は途方にくれるのみです。

今週のアキダバンの船でこの労働者が帰ってくれば、子供のその後の消息はわかりますが、これが未だにこの地域の現実です。さてエスペランサの状況ですが、青ボ隊が植えたニームの樹が見事に育っており、本当に心嬉しくなりました。マージョ村の切ない現実を見ての帰りでもあり、沈んでいた私の心を慰めてくれるエスペランサ村でした。

公園内に植えた樹は勿論、村の通りに植えた樹もしっかりした圍いに守られて、植えたニームの樹は一本も枯れたものは有りません。学校の先生や生徒達が、良く世話をしたのだと思います。

2008年 クリスマスの集いのご案内

秋も深くなり木々の紅葉を愛でるひと時をお持ちの事でしょう。今年も早残り2ヶ月足らずとなりましたが、この度クリスマスの集いを催すこととなりました。イエス様の歩みを通して自らの歩みを見つめなおし、新たな希望を持って出発できるような恵み多い機会を持つ事となりました。

クリスマスマッセージを受けて、心からイエス様の御生誕をお祝いし、イエス様を愛する場となれば幸いです。

また、楽しい催しもご用意しております。

皆様のクリスマス集会へのご参加を心からお待ちしております。

開催日時 平成20年12月14日（日）PM3時～6時

1部 クリスマスマッセージ 柴沼邦彦先生

2部 クリスマス歌のプレゼント

ビデオ上映「NPO地球の緑を守る会 -植林が地球を救う-」

プレゼント交換 キャンドルサービス ビンゴゲーム

開催場所 大山街道ふるさと会館 2F集会室

住所：川崎氏高津区溝の口 3-13-3

連絡先：044-829-2821

（南北米の事務所へ）

参加費 1000円

200～300円程のプレゼント

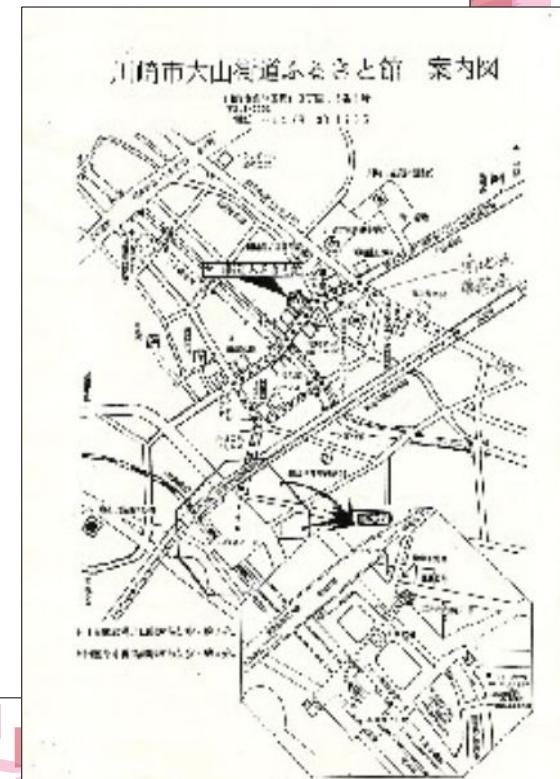
のご用意をお願いいたします。

主催 Peace Society(ピースソサイエティ)

担当 吉本

お申し込み連絡先 TEL/FAX 045-961-9131

Mail No. ipsiron46@yahoo.co.jp(吉本)



南北米福地開発協会 事務局
〒211-3101
神奈川県川崎市高津区
溝の口二十一丁目十五
岩崎ビル四F
八一九一二八二〇一
〇一七七六八〇四七一
郵便口座
代表 柴沼邦彦
E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>
会員費 F a 電話
一〇一八入 X
一〇一八入 X

レダ植林5000本
キャンペーン実施中！！

南北米福地開発協会ではパラグアイ・レダの地に五千本の二ームの植林を本格的にすることになりました。すでに二〇〇〇年の初めから粘土層で、年三ヶ月は雨も降らない乾燥地の植樹には難しいレダの地に植樹を進めてきました。その経験を元に、レダの環境において、最も適応する樹が二ームの樹であることが分かり、牧畜で砂漠化した土地の植林にモデルとして、皆様の協力を心からお願いします。詳しくは事務局に。